

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」岡崎校			
○保護者評価実施期間	2024年 12月 2日		～	2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		～	2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1 個別療育		・一人一人困りごとが異なるので、お子様の課題に合わせて支援のプログラムを作成している。 ・その日の体調や、心理的状況によって臨機応変に支援の内容を変えている。	お子様の成長に応じて担当者の変更を行ったり、小集団の支援を行うなど「いつもと違う」状況でも対応できるように、お子様の様子をしっかりと観察しサポートする。
2 保育園・幼稚園、学校、医療機関等との連携		・保育園等集団生活の場でどのように過ごしているか、また、困り事はどんな事を園と情報共有を行う機会を設けている。 ・かかりつけの医師や心理士と情報の共有を行い、支援方針について相談を行い支援方針を決めている。	一部の保育園や幼稚園には許可をいただき、訪問することができた。今後も通所頂いている利用者様の通園している保育園や幼稚園など、関係機関と連携を図っていける様に働きかけていく。
3 SNS等による情報共有		・毎日のInstagram投稿、1週間に1回、支援に使用する教材や、イベント、支援の様子、校舎内の取り組みについて情報の発信を行っている。	「きらり」岡崎校の取り組みの様子、支援でのお子様の様子などを知っていただき、お子様に「楽しそう」「行きたい」と思っていたけような様子を発信していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1 保護者様向けのイベントがない		お仕事をしている保護者様も多く、平日の開催が難しい。土曜日や、祝日は支援のご希望が多いことからイベントのスペースを確保することが難しい。	単発のイベントにならないよう、年間を通して複数回企画するなど、参加しやすい予定や時間設定を考えていく。
2 支援室の上部が開放されており、隣の部屋の声などが聞こえてしまう		構造上変えることができない。虐待防止の観点からも塞ぐことが難しい。	状況に応じて使用する部屋を変更するなど臨機応変に対応していく。
3			

保護者等からの事業所評価の集計結果

7

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1	0	0	身体を使った活動をする場合の教室が限られている。勉強スペースとしては、机が配置されていて十分な感じ。	ご利用いただく支援室は固定させて頂いておりますが、支援内容によって支援室を変更させて頂いております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1	0	0	時間帯によっては、職員が全員支援に入っているもので、入り口を施錠してるとはいえ、安全面がやや心配かなと感じる。	ご心配をおかけして申し訳ございません。安全を確保し安心してご利用いただけるよう、人員の配置を行ってまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1	0	0	現在、使用している教室がほぼ固定されている為、他の教室の状況が把握出来ていない。	空いている支援室もご覧いただけるようにしております。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	1	0	0	支援員の方々が手作りされて、季節に合わせた飾り付け等もされているし、利用時にゴミが落ちていたのをみたことがない為、清掃が行き届いていると感じている。	ありがとうございます。引き続き環境の整備を行い、清潔な環境を保ってまいります。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	1	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6	1	0	0		
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	1	0	0	子が通っている学校での支援との相違がある点もある為、学校との連携も必要なのかなと感じた為。	お子様の通学・通園されている施設との連携を進めております。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6	1	0	0	子が通っている学校での支援との相違がある点もある為、学校との連携も必要なのかなと感じた為。	お子様の通学・通園されている施設との連携を進め、方向性を確認して参ります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1	0	0	ほぼ計画に沿ってはいいるが、より子どもがステップアップを図れるプログラムを定期的に提供いただきたいとも感じる為。	定期的にプログラムの確認をしていたいただけるような仕組みを工夫して参ります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	1	0	0	ほぼ計画に沿ってはいいるが、より子どもがステップアップを図れるプログラムを定期的に提供いただきたいとも感じる為。	定期的にプログラムの確認をしていたいただけるような仕組みを工夫して参ります。
保護者への説明等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	1	0	0		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6	1	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6	1	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	1	1	3		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていていると思いますか。	6	0	0	1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	0	0	1	時々学校での様子等を確認して下さり、支援内容を変更してくれたこともあり、子の良い面に関して褒めてくれることが多い。	今後もお子様のご様子を伺いながら、いいところを伸ばせるような支援に取り組んで参ります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	2	0	5		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3	0	0	4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5	0	0	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1	0	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5	0	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	2	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」岡崎校			公表日		2025 年 2 月 15 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用者の1時間の受け入れ人数も支援員の数と一致できるように配置し、支援室も同数にして、適切にしている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		ガイドラインに沿って不足が無いように適切に行っている。	職員の体調不良や、急な休みが発生した際に受け入れが出来ないことも生じるため、人員の補充を希望している。		
	3	2025年 1月 17日	○		玄関から支援室にかけてはバリアフリーとなっています。支援室は課題に集中できるよう環境に配慮している。	事務所の浸水防止工事を行ったため、玄関フロアと事務室に若干の段差が生じました。カーペットの色を変え意識出来るようにしていますが注意が必要。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃を行い、清潔な環境作りを心掛けています。利用者様に合わせて机の配置や特性に合わせた空間作りを意識している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		状況に応じて部屋を変えたり、支援場所を変える様工夫している。	部屋の上部が解放されているため、隣の支援室の様子が聞こえてしまうため、配慮が必要。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎月の職員会議で議題に挙げ、参加している職員で話し合い、参加できていない職員にも共有できるように記録を残している。	公休の兼ね合いで、全員が揃って会議を行うことが難しいため、共有の方法について工夫が必要。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの評価を職員全員が見られるように設定しており、随時話し合いを行い改善するよう努めている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月1回の職員会議にて、意見を把握する機会を設けており、業務の改善に繋げている。	公休日の兼ね合いで職員全員が揃っての職員会議や意見交換をすることが難しい。情報の共有が迅速に行えるようにしていきたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は行っていない。	ご要望があれば検討していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月定例の社内研修があり、積極的に職員皆が参加している。	スキルアップのため、外部の研修参加を検討している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○	支援プログラムについては1月にHPにて公表。個別の支援プログラムは毎回掲示しフィードバック時に保護者にも確認いただいている。	「きらり」HPにて公表中。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		年度ごとのアセスメントに加え、半年に1回のモニタリングでその時の利用者に合わせて作られている。	引き続きお子様の課題達成状況に応じて保護者様と相談をしながら計画を作成していく。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリングシートを作成する際に担当支援員も参加し、保護者との聞き取り後に担当支援員との情報共有を行っている。	児童発達支援管理責任者、担当指導員、前担当指導員などお子様に関わりのある職員で情報共有を行い検討していく。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員が支援計画を閲覧できる環境にあり、計画に基づき支援を行っている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールを使用し、確認している。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		利用者様の状況やご要望に応じて狙いの設定を行い、必要な支援内容を組み立てている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当者固定のため1人でプログラムを立てることが多いが、複数担当の場合は話し合う機会を設け、意見交換をしながら作成している。			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		一定期間固定する場合もあるが、状況の変化に応じて柔軟に対応している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○	個別支援のため、集団活動を行っていない。	ご要望がある場合は、小集団活動を行う準備をしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝打ち合わせを行い、必要に応じて役割分担の確認や、支援内容を確認している。	学校休業日は朝から利用者様のご利用があるため、打ち合わせが不十分なことがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援後情報の共有を行ったり、申し送りを必ず行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援後、社内共有アプリにて記録の入力を行い、社内でも共有できるようになっているため検証や改善に繋げることが出来る。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1回のモニタリングを行い、計画の変更が必要かどうかを考え、見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		保護者、児発管、担当指導員が参加している。	利用者様に関わりのある職員が参加できるようにしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		小学校、中学校と連携できる体制と作っている。	学校や施設によって対応が異なるため、今後も積極的に働きかけていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	送迎を行っていないため、連絡調整は普段から行っていないが、情報の共有を行うために働きかけている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	現時点では情報共有や相互理解が出来ていないが、今後連携を図っていきたい。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○	地域の児童発達センターとの連携は取れていない。	必要に応じて連携を図れるよう
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域の保育園等と一緒に活動する機会はない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援後のフィードバックにおいて、お子さんの普段の様子や課題について共有し、共通理解を持っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ご要望がなかったため、ご家族様向けの研修を行っていなかったが、状況に応じて対応していく。	職員がペアレントトレーニングについて学ぶ機会を設け、ご要望に応じて研修等の実施を計画していきたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		ご契約時にご説明させて頂いている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		お子様の状況や保護者様のご要望を伺い、支援計画を作成した際は確認して頂いている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		ご提示しながらご説明、その後同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談事があった場合、事業所内相談につなげるように声をかけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	保護者同士の交流会は実施していない。	情報提供の場として保護者交流会のご要望があったため、企画していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		ご要望があった場合は、児発管、指導員に関わらず相談の対応をさせて頂いている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		Instagramやブログを使って、校舎の雰囲気や教材などをあげている。	許可をいただいた利用者様の支援の様子なども掲載し、よりきらりの支援を知っていただく機会を作っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は施錠保管している。	机の上に名前が見えるようにプログラムが置いてあったり、パソコンが開きっぱなしになっていて、ガレージの画面が見えてしまうことがある。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子様や保護者様に伝わりやすい様、イラストなどを用いるなど配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域住民の招待は行っていない。	状況に応じて対応していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し訓練を実施している。	ご家族でご存知ない方もいるため周知をしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月の防災訓練を行っており、避難経路の確認をしている。また、随時非常バックの中身を確認している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		熱性けいれん持ちの子の情報に関して情報共有し、対応方法も情報共有している。	対象児童の発作発生時に慌てないよう、日ごろから有事に備えていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		食品を扱った支援を行っていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		毎月の防災訓練を行っており、避難経路の確認をしている。また、随時非常バックの中身を確認している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		待合に安全計画を設置し閲覧できるようにしている。	全体に周知できていないため、わかりやすい様に掲示を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった場合、適宜報告して今後の対策を話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待会議を行い、事業所内で気をつけなければならないことなどを職員間で共有し、対策を講じている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		個別支援計画に記載し、確認と了承を得ている。	